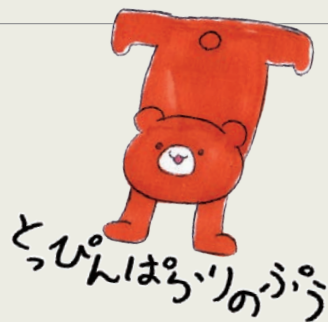


魅力発見ラボ

活動レポート
2023. 夏編

LINEスタンプ完成!



昨年度の「魅力発見ラボ」の活動から、今年2月21日、LINE用のオリジナルスタンプ「西和賀高校と森のゆかいな仲間たち」が誕生しました。スタンプは全部で32種類。イラストはラボのメンバーである金田一ひかりさんと平澤美鈴さん（ともに現在2年）の手描きで、「もともとイラストを描くのが好きなので、活動はとても楽しかった」と声を揃えます。

スタンプのキャラクターは、タヌキやヤマドリなど西和賀町の豊かな自然の中で暮らす動物たちや、郷土芸能「鬼剣舞」の舞手などを「ゆる〜く」擬人化したもの。また言葉の一部には、「んだ（うん）」「めんこい（かわい）」「まめでら（まめでら）」「かろ（かろ）」といった方言が使われています。

「10代からお年寄りまで幅広い世代に使用してもらいたい」「スタンプを通じて、西和賀の魅力を町内外の人に知ってもらいたい」という二人の想いが詰まったスタンプ。皆さんもぜひ使ってみてください。



岩手県内のデザイナーを講師に迎え、どんなスタンプがいいか話し合いました。▶



LINEスタンプはLINE STOREで発売中!



ユキノチカラ&「魅力発見ラボ」って?

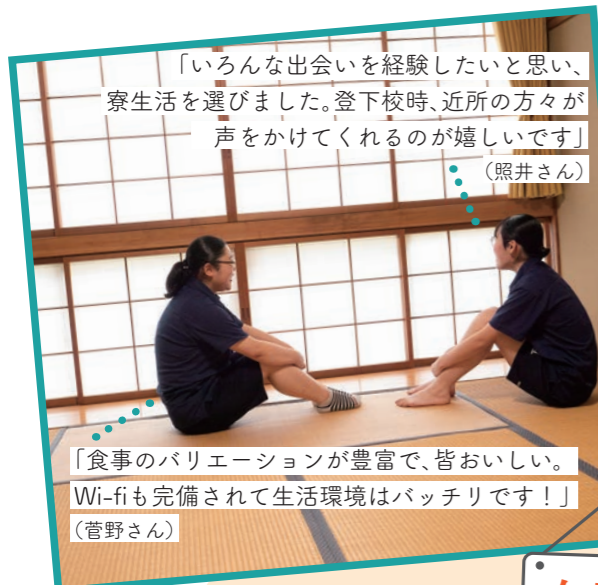
西和賀町は岩手県と秋田県の県境にある、自然豊かな町。岩手屈指の豪雪地帯でもあり、毎年道路脇には1〜2メートルの雪が積もります。生活者にとって雪は時に厄介ですがスキー場や雪あかりにはなくてはならない資源。春の豊富な雪解け水があるからこそ、山野の恵みが育まれるのです。

そんな「雪」を西和賀独自の力に変え、まちの魅力発見&発信につなげよう!という思いで始まった「ユキノチカラプロジェクト」。2019年には協議会を立ち上げ、商品開発や販売会への出展、SNSやメディア

アを通じた西和賀町の発信に取り組んできました。

最初は、町内事業者が中心となった大人のたちの活動でしたが、2022年から西和賀高校や町の教育委員会も連携。社会学習プログラムとして、生徒から希望者を募り「魅力発見ラボ」が動き出しました。まずは、町を実際に歩き魅力をいろいろリサーチ。チームに分かれてLINEスタンプ制作、地元食材を使った商品開発など、町の人と一緒にアイデアを一つずつカタチにしています。





「いろんな出会いを経験したいと思い、寮生活を選びました。登下校時、近所の方々が声をかけてくれるのが嬉しいです」
(照井さん)

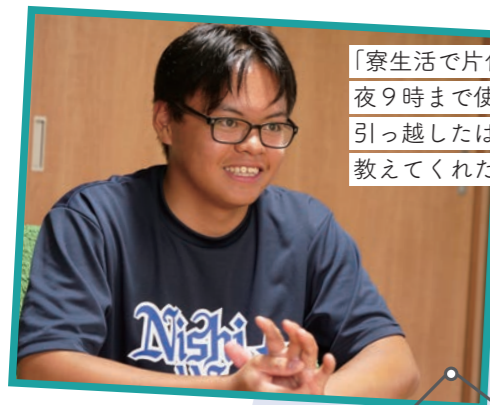
「食事のバリエーションが豊富で、皆おいしい。Wi-fiも完備されて生活環境はバッチリです！」
(菅野さん)

女子寮

現在、北上市内の中学から進学した3人が暮らす女子寮。吹奏楽部の菅野咲穂里さん(2年)、照井日心さん(1年)も寮生活を楽しんでいます。自然に恵まれた西和賀で、湖や川あそび、雪あかりにも参加したい！と二人は話します。

時には、みんなでカレーづくり。

吹奏楽部はクラリネット担当を大募集集中！



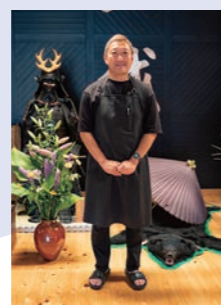
「寮生活で片付けが身につきました。旅館内の大浴場も夜9時まで使えるので、ゆっくり一人できつろげます。引っ越したばかりで道がわからない時も、地域の方が教えてくれたり、皆さんとても温かいです」

男子寮

男子寮ができたのは令和5年4月。町内の温泉旅館「一城」が運営しています。寮生の一人、佐藤和則さん(1年)は秋田県の横手南中出身。野球部キャッチャーとして活躍中です。

地域の皆さんが温かい！

「息子が増えたような気持ちで見守っています」と一城のご主人



「息子が増えたような気持ちで見守っています」と一城のご主人

たのしい寮LIFEレポート

西和賀高校が町外から通学する学生向けに寮を完備しているのを知っていますか。学校から自転車約10分。湯本温泉街の一角にあり、おいしい食事とゆったり温泉、個室でじっくり学習に取り組める寮は、西和賀ならでは！



虫に興味のあるメンバーが、「ハチ」「ハチミツ」をキーワードに、「蜜蝋を使ったシーリングスタンプづくり」「ハチの生態や養蜂の仕組み」をテーマに研究しています。撮影日はハ



2023 MISSION. 01

チミツの基本を学んだ後、町内産の8種類のハチミツを食べ比べ。「これは味がすっきりしている」「とろみもチェックしよう」と盛り上がっていました。

ハチとハチミツの研究



昨年度、LINEスタンプ「西和賀高校と森のゆかいな仲間たち」をつくったメンバーが、今年度は、町立西和賀さわうち病院とのコラボレーションで同院オリジナルのスタンプづくりにも挑戦。「どんな言葉のスタンプがほしいか」といった職員の皆さんへのアンケートをもとにデジタルイラスト制作を進めています。

さわうち病院のLINEスタンプづくり



加工品の魅力を発信



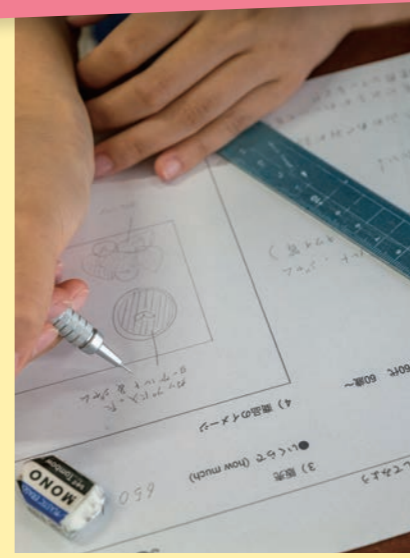
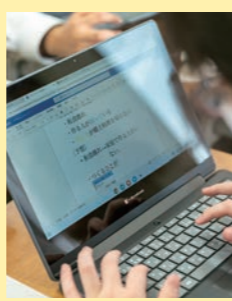
西和賀町では、山里の恵みを利用したさまざまな種類のジャムがつくられています。それらのうち、一般的にあまり馴染みがない「マルメロジャム」と「サルナシジャム」に着目し、そのおいしさをより多くの人に発信すべく思案中。具体的には、パンケーキとの組み合わせや食べ比べセットを町内のカフェに提案したい、と計画しています。

4つのグループに分かれて新活動がスタート！

「郷土料理を食べよう」を提案



西和賀町をはじめ岩手県内や東北地方には、バラエティに富んだ郷土料理がいっぱい。「でも、どの地域でも食べられる機会がどんどん減っているのでは？」と考えたメンバーたちが、県内各地に出かけてヒアリングをしながらその理由を探ります。最終的には、現在よりも食べる機会が増えるような方策の提案を目指しています。



ネビラキカフェ



どちらも、商品をお客様に届けるための試作を重ね、味を確かめて、パッケージデザインを考えて調整。そのステップは決して簡単ではありませんが、ものづくりの大変さを実践で学ぶと共に、町への愛着が一層深まる機会となっています。

111COFFEE

手」というメンバーがいたので、ならば高校生でも気軽にコーヒーを楽しめる商品を作りたいというわけで、オリジナルカフェオレベースづくりに取り組み中です。

2023 MISSION. 02

自由な発想とアイデアで新商品づくりが進行中！



▲冬場には積雪を活かした雪室でコーヒー豆熟成の実験をしました。



西和賀高校ってこんな学校！

校長先生インタビュー

岩手県立西和賀高等学校
助川剛栄 校長先生

西和賀高校の最大の特長は、「地域に支えられて自己実現ができる学校」ということでしょう。西和賀町からは生徒や学校にさまざまな経済支援がありますし、生徒たちは町の人たちから気軽に声をかけられるなど、「見守られている」「応援してある」と感じています。

地域の皆さんに温かく見守っていただいています

一方で、西和賀高校は1学年の平均生徒数が30名と小規模校ながら毎年6〜7割の進学実績があり、今年は2つの運動部



がインターハイに出場。生徒一人ひとりが目標や希望の実現を目指して努力し、それを達成している高校なのです。また、西和賀高校の生

徒たちは、自分たちの学校に魅力を感じ、その魅力をさらに高めるために自らさまざまな活動に取り組んでいます。実際アンケートによると、生徒たちの学校に対する満足度は85〜90%と高いもの。さらに、子どもたちが毎日楽しく学校生活をおくり、進路などの希望を実現していることから、保護者の満足度も90〜95%になっています。このような高校生活をより多くの人たちにも体験していただきたいと思い、県外からの入学希望者も募集しています。「自慢」は、雪を含めた四季折々の豊かな自然と、旧温泉旅館を活用した学生寮。一緒に自己実現を目指しましょう。

〈西和賀高校の特色〉

- ▶ 数学と英語は習熟度別クラスに分かれて学習。
- ▶ マンツーマンの指導や体験型キャリアなど、授業以外の学びが充実。
- ▶ 部活動や地域貢献活動で個性を活かし、主体的・協働的な活動を実践

〈町による経済支援〉

- ① 町内バスの利用料無料
- ② 予備校講師による課外授業など無料(公営塾事業)
- ③ 模擬試験料の補助、各種検定料の補助による資格取得支援
- ④ 西和賀町外からの入学者への学生寮費用の補助
- ⑤ 希望者にランチのおかずの提供(自己負担額1食150円 / 主食は持参)

ボート部はインターハイ・全国選抜大会の常連！

西和賀高校の部活動のなかで特に活躍がめざましいのが、ボート部。特に女子は、毎年インターハイや全国選抜大会に出場しており、今年も舵手付クオドルプルが北海道インターハイに出場しました。



ボート部の練習場所は町内の錦秋湖。部員たちは西和賀の大自然に囲まれながら活動し、心身を磨いています。

高校生のボート競技は、直線1000メートルの距離を漕いでタイムを競う、というものです。高校に入学してから始める選手がほとんどなので、これまでの運動経験を気にせず、誰でも挑戦が可能。皆さんも仲間に加わりませんか。



ユキノチカラ新聞
西和賀高校×ユキノチカラ
「魅力発見ラボ」
活動レポート 2023 夏編

【発行】
ユキノチカラプロジェクト協議会
岩手県立西和賀高校
西和賀町

【デザイン・編集】
木村敦子
関山紗輝

ユキノチカラロゴマークデザイン/
小笠原雄大

【事務局】
ユキノチカラプロジェクト協議会
https://yukino-chikara.com

発行日 / 2023年9月